

香川大学大学院地域マネジメント研究科
地域マネジメント・ケース・シリーズ
ISSN1881-3224
No.6

“あつぎビジョン”を活用した情報発信事業
－神奈川県厚木市の事例－

緒方 俊則

April 2007

Graduate School of Management
Kagawa University
2-1, Saiwai-cho, Takamatsu, Kagawa 760-8523, Japan
<http://www.gsm.kagawa-u.ac.jp/>

“あつぎビジョン”を活用した情報発信事業

— 神奈川県厚木市の事例 —

香川大学大学院地域マネジメント研究科

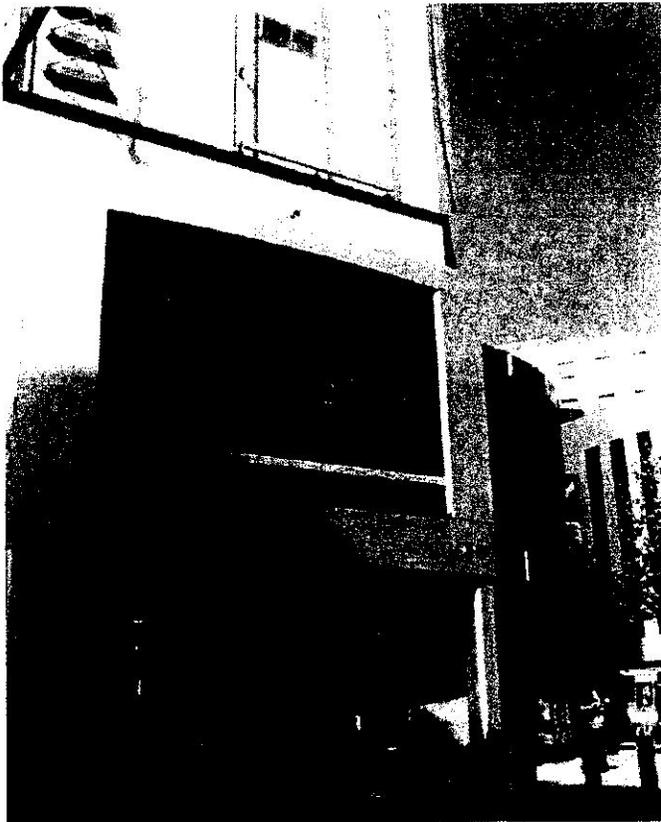
緒 方 俊 則

1 はじめに

あつぎビジョンは、神奈川県厚木市において、2006年11月1日から放映を開始した大画面のことである。仕様は縦3.8m×横6.7m、300インチ、発光ダイオード(LED)フルカラーとなっている。下部に横列15文字スクロールの文字テロップ部分も持つ。

1日の乗降客14万人、小田急線第5位の本厚木駅前に厚木市が設置をしたもので、午前7時から午後10時まで毎日15時間放映を行っている。放映内容は、イベント、施設、観光などの行政情報のほか、市内の民間広告、地域情報などである。現在、このビジョンによって、情報の発信による地域の活性化、地元商店街の活性化、大学教育の多様化等々の新たな価値が生み出されようとしている。

(あつぎビジョン (厚木市提供資料))



2 厚木市の状況

厚木市は神奈川県中央部に位置する人口 22 万の内陸部の都市である。東京から 46km、横浜から 32km の距離にあり、日本の大動脈である東名高速道路が走る。また、鉄道も JR、小田急線が通るなど交通の要衝の地である。面積は 93.83 平方キロメートル。相模川を代表とする大小の河川、また、緑豊かな自然環境にも恵まれている。

1960 年に工場誘致条例を制定し、その年に地域経済の基盤となるソニー厚木工場が完成している。その後も東名高速道路のインターチェンジなど交通拠点としての優位性を活かしながら、製造業や流通業、研究開発型企业などの立地の促進に努め、現在は、首都機能を分担する業務拠点都市の位置づけも持つ。

市政の方針として、〔交通渋滞解消の推進〕〔防災対策の推進〕〔高齢者等福祉施策の充実〕を「3 大政策」とするとともに、〔IT のまち〕〔ハイウェイのまち〕〔ハーモニカのまち〕を柱とした「3 つのまちづくり」を掲げ、市政運営に取り組んでいる。

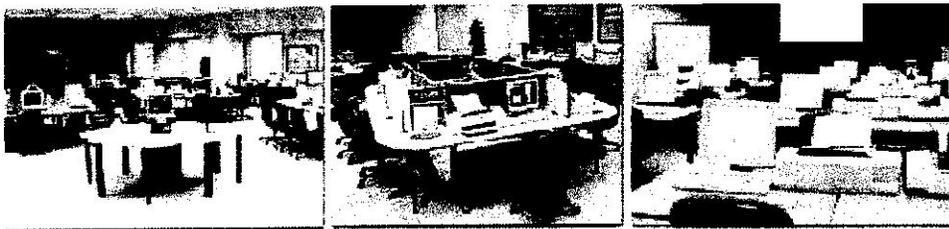
3 厚木市の情報化の取組

あつぎビジョンの設置に至るまでには、市の情報化についての取組の経緯が見られる。

市の情報化の取組は 1986 年にテレピアの指定を受けた時に始まる。策定した「厚木テレピア計画」に基づき、160 種類以上の情報を提供するビデオテックス「キャプテンシステム」や、スポーツ施設予約システム、図書館情報システムなどを構築し、市民生活に密着した情報提供に取り組んできた。

1999 年、厚木市の行政情報ネットワークの中核施設であり、また地域情報化の拠点施設の役割も担う「厚木市情報プラザ」(注 1) が開館している。面積 663.95 m²、市内のアクストメインタワー 2 階にある。同タワーの 4 階には厚木伊勢原ケーブルネットワーク(株)も入居するなど市内のマルチメディア情報発信拠点となっている場所である。

(厚木市情報プラザ内の設備の様子 (厚木市HPより))



「厚木市情報プラザ」は、「子どもからお年寄りまで、だれもが集まる街の情報オアシス」というコンセプトでつくられており、利用者が自由にパソコンを操作し、IT を体験・学習することができる「メディアパーク」やパソコン教室としての設備を整え、ワープロや表計算などの各種講座が定期的開催される「デジタル工房」などが整備されている。また、2002 年からはインタ

ーネット技術を用いた利用者向けのサービスも展開している。急速に普及する情報通信技術を市民が楽しく体験・学習できる施設として、情報化学習の場を提供している。

2002年には厚木市IT戦略会議が「厚木市IT基本戦略」をまとめ、この戦略のもと「ITのまちづくり」が推進されてきている。基本理念は「みんなでつくるITのまちあつぎ」である。基本戦略として、「市民利用のトップランナー」、「安心・安全のトップランナー」、「創造・発見・元気なまちづくり」、「ITのまちにふさわしい電子自治体」の4つを掲げる（「トップランナー」とは、市民にとって最も進んだ環境を実現するという意味）。そして、最重要課題として「市民の積極的なIT活用」実現のため、学校教育の充実や市民の情報機器を取り扱う能力の向上など、教育に関する施策に取り組む。また、重点課題として、市民の生命、財産を守るための医療・福祉や消防・防災に関する施策、産業振興のためのSOHOなどに対する支援やポータルサイト構築に関する施策、市民サービスにつながる電子自治体の構築などが位置づけられている。

翌2003年には、2004年から2005年にかけて市が取り組む情報化に関する50の施策をまとめた「ITのまち あつぎ アクションプラン50」が策定されている。その中でも最重要施策として、公共施設予約システム（サービスの対象施設の拡充等）、総合行政情報システム（電子決裁を基盤とした行政の内部事務の全面的なシステム化）、消防通信指令システム、市立病院オーダーリングシステム（市立病院において、検査、処方、再診予約など医療内容の指示の正確性、迅速性を図るためのシステム）、ホームページ全面リニューアルの5つが位置づけられている。

そして、2005年には、同年2月1日の市制50周年を記念して「電子市役所宣言」が出され、更に積極的に情報化に取り組んでいくことを宣言している。

電子市役所宣言

厚木市は、厚木市IT戦略会議からの提言に基づきアクションプランを作成し、情報通信技術を活用し、だれでも・いつでも・どこでもITの恩恵を受けることができる「ITのまちづくり」を推進してきました。

これからも、21世紀のまちづくりのため、「ITのまち・あつぎ」として更に積極的に情報化に取り組み、未来へと躍進してまいります。

市制50周年に当たり、ITを活用することによって、市民の皆様の快適な暮らしを実現し、活力ある地域社会を創造することを誓い、ここに「電子市役所」を宣言します。

平成17年2月1日

厚木市

4 あつぎビジョン

4. 1 厚木市地域映像メディア活用推進事業

あつぎビジョンは、「厚木市地域映像メディア活用推進事業」の中で取組が始まった。この事業は、厚木市において、映像コンテンツの製作や大型ビジョン、ケーブルテレビ、インターネット動画配信、薄型パネル等の映像メディアの複合的な活用を推進する事業である。事業実施に当たっては、市、市内の大学、市民、民間企業等が連携して取り組むこととし、地域経済の活性化と豊かな地域コミュニティの創造を図ることをねらいとする。2006年度を初年度とし、事業費1,540万円で始まった。ふるさと財団が2006年度から始めた「大学と連携した地域づくり」助成事業に採択され、事業費のうち3分の2は同財団の助成金を財源としている。

この事業を市が始めるに当たっては、上記3で見てきたような市の情報化の取組の積重ねに加え、市の地域資源ともいえる地域の様々な主体との連携基盤があることが大きい。それはまず大学の存在である。市内には映像関係の学科を持つ大学が3つある。映像、写真、デザイン等の学科を持つ東京工芸大学芸術学部、情報メディア学科等を持つ神奈川工科大学、そして学校法人ソニー学園（注2）が経営する湘北短期大学である。地域映像メディア活用推進事業は、これらの大学の先生や学生の参画を得て進められている。また、市内には総合映像産業であるソニー株式会社の厚木テクノロジーセンターがある。そこに勤務する社員の現役・OBの中には市内在住者も少なくなく、この事業の推進に当たって参画を得やすい環境にある。ほかにも市内にはNTT、日立、富士通の企業もあり、連携を図っていくことになる。また、厚木市・伊勢原市の10万9,800世帯を対象として事業を展開している厚木伊勢原ケーブルネットワーク（株）が持つノウハウを活用できることも大きい。このような関係主体との協力関係は、地域映像メディア活用推進事業の中心となる「厚木市地域映像メディア研究会」の委員構成に反映されている。さらに、この事業は地域経済の活性化と豊かな地域コミュニティの創造を目的としていることから、商店会連合会や観光協会、青年会議所も研究会のメンバーとなっている。このような委員構成により、この研究会は、映像メディアの利活用についての企画立案・事業の実施、各主体の連携手法の検討・調整、地域の多様な人材の活用、コンテンツ制作に係る技術向上などに取り組んでいる。

4. 2 あつぎビジョン

(1) あつぎビジョンについて

あつぎビジョンは地域映像メディア活用推進事業の中核的な取組となっている。冒頭に掲げたように300インチのフルカラー大画面と下部に文字テロップ部分を持つ。1日の乗降客14万人の本厚木駅前に設置されたものである。

市では2004年度から2ヵ年度で、本庁舎や公共施設5箇所にプラズマ（液晶）大画面パネルを設置し、それらを通して行政コンテンツを配信する事業を実施した。この事業がきっかけとなり、“映像による情報発信によって中心市街地の活性化、魅力づくりができないか、あるいはケーブルテレビやインターネットストリーミングなどと連携した新しいタイプの行政広報ができない

か”という発想の中から、「あつぎビジョン」の構想が生まれたということだ。また、厚木商工会議所のTMOでも同じように大型ビジョンの設置の議論が進んでいたということである。

（公共施設等に設置されたプラズマ（液晶）大画面パネル；市政情報を発信している。写真は私立病院に設置された大画面パネル（厚木市提供資料））



名称であるが、公募によって決められた。集まった全229点の応募の中から、シンプルで覚えやすい名称として、「ATSUGI VISION（あつぎビジョン）」が選ばれた。

放映開始は2006年11月1日である。10時からオープニングセレモニーが行われ放映が始まった。放映開始の翌週11月6日～12日の放映内容は表1のとおりである。左上の「00:00 ATSUGI VISION」から始まって右下の「29:30 LOGO」まで、全体で30分番組として構成されている。放映時間は午前7時から午後10時までの15時間ということで、この30分番組が1日に30回音声とともに放映されている。

内容の構成は、表1の3段に別れているうち左側「00:00～10:00」と右側「20:00～30:00」の時間帯が行政情報、地域情報の時間帯となっている。「エンゼルサポート事業のお知らせ」や「オールテクノフェスタPR」などは行政からの市民向けの広報である。「神奈川工科大学文化祭（幾徳祭）PR」などは地域情報に当たる。真ん中の「10:00～20:00」は民間広告の時間帯である。全国展開をしている企業の広告の中に地元の企業・商店の広告も見られる。15秒単位の広告がこの10分間に2回放映されるので1時間当たりの放映回数は4回となる。20企業の広告が行われている。

あつぎビジョン番組表
11月6日～12日

ATSUGI VISION

※敬称略

時間	内容	時間	内容
07:30	AT SUGI VISION	20:00	BLOCKSランキング(まざわ書店提供)
08:15	あつぎビジョンお祝いメッセージ	20:15	あつぎビジョンお祝いメッセージ
08:30	お祝いメッセージ	20:30	AT SUGI VISION
09:00	あつぎ大好き!日本のお祭り	20:45	あつぎビジョンお祝いメッセージ
09:15	あつぎ大好き!日本のお祭り	21:00	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
09:30	あつぎ大好き!日本のお祭り	21:15	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
09:45	あつぎ大好き!日本のお祭り	21:30	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
10:00	あつぎ大好き!日本のお祭り	21:45	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
10:15	あつぎ大好き!日本のお祭り	22:00	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
10:30	あつぎ大好き!日本のお祭り	22:15	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
10:45	あつぎ大好き!日本のお祭り	22:30	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
11:00	あつぎ大好き!日本のお祭り	22:45	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
11:15	あつぎ大好き!日本のお祭り	23:00	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
11:30	あつぎ大好き!日本のお祭り	23:15	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
11:45	あつぎ大好き!日本のお祭り	23:30	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
12:00	あつぎ大好き!日本のお祭り	23:45	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
12:15	あつぎ大好き!日本のお祭り	24:00	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
12:30	あつぎ大好き!日本のお祭り	24:15	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
12:45	あつぎ大好き!日本のお祭り	24:30	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
13:00	あつぎ大好き!日本のお祭り	24:45	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
13:15	あつぎ大好き!日本のお祭り	25:00	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
13:30	あつぎ大好き!日本のお祭り	25:15	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
13:45	あつぎ大好き!日本のお祭り	25:30	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
14:00	あつぎ大好き!日本のお祭り	25:45	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
14:15	あつぎ大好き!日本のお祭り	26:00	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
14:30	あつぎ大好き!日本のお祭り	26:15	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
14:45	あつぎ大好き!日本のお祭り	26:30	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
15:00	あつぎ大好き!日本のお祭り	26:45	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
15:15	あつぎ大好き!日本のお祭り	27:00	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
15:30	あつぎ大好き!日本のお祭り	27:15	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
15:45	あつぎ大好き!日本のお祭り	27:30	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
16:00	あつぎ大好き!日本のお祭り	27:45	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
16:15	あつぎ大好き!日本のお祭り	28:00	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
16:30	あつぎ大好き!日本のお祭り	28:15	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
16:45	あつぎ大好き!日本のお祭り	28:30	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
17:00	あつぎ大好き!日本のお祭り	28:45	あつぎ大好き!FNECバワ 徳田優一
17:15	あつぎ大好き!日本のお祭り	29:00	あつぎの四季
17:30	あつぎ大好き!日本のお祭り	29:15	あつぎの四季
17:45	あつぎ大好き!日本のお祭り	29:30	あつぎの四季
18:00	あつぎ大好き!日本のお祭り	29:45	あつぎの四季
18:15	あつぎ大好き!日本のお祭り	30:00	あつぎの四季

※ 放送時間は、午前十時～午後10時です。午前7時～8時、午後7時～8時は、県条例により民間放送は音声なしとなります。
 ※ 放送時間中は、上記30分番組を繰り返し放送します。民間広告枠は、毎時10分～20分、40分～50分です。
 ※ 大規模災害・事故等が発生した場合は、報道番組を優先します。その他、都合により、予告なく番組の一部を変更することがあります。



企業の広告であるが、「厚木市広告掲載要綱」（注3）に基づき募集・決定が行われる。この要綱は「市の資産に民間企業等の広告を掲載することによる市の資産の有効活用により、新たな財源を確保し、もって市民サービスの向上及び地域経済の活性化を図ることを目的」としてつくられたものであり、市ホームページバナー広告や市立病院領収書にも適用されるものである。内容として広告募集方法などを定めている。市では各部署において積極的に取り組むためのインセンティブとして、広告掲載事業に取り組んだ部署には予算編成時の枠配分において枠のプラスがあるということである。

広告は1回15秒単位で販売され、1日当たり60回（4回/時間×15時間）放映される。2006年度の場合、映像広告料金は、1週21,000千円、4週79,800円、26週491,400円などとなっている。文字広告料金は1回15秒・50文字以内で販売され、1週で6,300円などとなっている（表2）。

表2 2007年度・あつぎビジョン料金表（厚木市HPより）

・映像広告(30秒CMの場合は放映回数が1/2になります)

4回/時間(1回15秒)	1週間	4週間	26週間	52週間
基本放映回数 (※最大放映回数)	392回 (420回)	1,568回 (1,680回)	10,192回 (10,920回)	20,384回 (21,840回)
市内事業者	21,000円	79,800円	491,400円	873,600円
放映単価 (最大放映回数の場合)	約54円 (50円)	約51円 (47.5円)	約49円 (45円)	約43円 (40円)

※15時間の放映時間のうち56回/日(14時間)を基本放映回数とし、残りの1時間は故障、保守、イベント中継(鮎まつり)等の理由で放映が出来なかった場合の代替放映時間とします。通常は最大60回/日(15時間)の放映を行います。
※情報番組の一部を利用して、広告掲載を行う場合の広告料金は、表中の1週分の料金を基準として、広告部分の面積、放映時間及び回数などから算出します。

・文字広告(1回15秒・50文字以内です)

12回/時間(1回15秒)	1週間	4週間	26週間	52週間
基本放映回数 (※最大放映回数)	1,176回 (1,260回)	4,704回 (5,040回)	30,576回 (32,760回)	61,152回 (65,520回)
市内事業者	6,300円	23,940円	147,420円	262,080円
放映単価 (最大放映回数の場合)	約5.4円 (5円)	約5.1円 (4.75円)	約4.9円 (4.5円)	約4.3円 (4円)

※15時間の放映時間のうち168回/日(14時間)を基本放映回数とし、残りの1時間は故障、保守、イベント中継(鮎まつり)等の理由で放映が出来なかった場合の代替放映時間とします。通常は最大180回/日(15時間)の放映を行います。

2006年度分は完売し、放映開始からの5か月間で約700万円の収入となっている。2007年度分の広告募集が2006年12月1日から始まったが、映像広告については早々にほぼ完売となった。年間収入として約1,700万円が見込まれている。ちなみに、年間の運営経費が約3,000万円(注4)と見込まれているが、その5割強を広告収入が占める計算である。募集して早々に完売となる状況を考えると、もう少し広告料金を上げ、収入増を図る余地があるのかもしれない。

放映中の民間広告は市のホームページにて公開されるほか、携帯WEBでも公開されている。あつぎビジョンで放映される広告を見て気に入ったお店があった場合、市のホームページ、携帯WEBを見ることにより、お店のホームページや電話番号にアクセスすることが可能となる。近年、隣接する海老名駅に大規模商業施設がオープンし、本厚木駅前を中心とした商業圏が海老名駅周辺にシフトする状況が出てきているが、あつぎビジョンが商店街活性化に寄与することが期待される一場面である。

(2) あつぎビジョンのコンテンツづくり

さて、あつぎビジョンは放映を通じて地域の活性化等を進めるだけではなく、発信するコンテンツづくりにおいても特色ある取組となっている。

①民間広告づくり

あつぎビジョンの放映開始に先立ち、「コマーシャルコンテスト」に応募する作品の募集が始まった。この事業は、厚木市などの後援のもと厚木市商店会連合会が主催して実施するもので、参加者は、商店会連合会に所属する27の商業店舗を紹介する30秒コマーシャルを製作する。その作品をあつぎビジョンにて放映し、市民参加による審査の上、優秀作品につき表彰しようとするものである。

ねらいは、地元商店街のPR、あつぎビジョンへの関心の喚起、コマーシャル製作を通して学生に実践的な教育を実施すること、民間事業者と学生とのコンテンツ作成のマッチングが挙げられる。後の2つは大学との連携でこの事業を進めるという考えからのものである。

このコンテストには、24点の作品の応募があった。うち学生の作成は18点である。24点について予備審査を経て10点に選ばれ、作品は11月3日から5日の間、あつぎビジョンにて放映された。市民がそれを見て投票をするという形でコンテストは実施され、投票数は976票、精肉店を対象にした作品が208票を集めて大賞に選ばれた(全24点の作品が厚木市商店会連合会のホームページ(注5)にて公開されている。)。コンテストは毎年実施の予定であるが、参加する学生、一般市民にとって実践的な機会として、コンテンツづくりのレベル向上につながることを期待される。

(コマーシャルコンテスト、市民による審査風景 (厚木市提供資料))



市では2007年度にあつぎビジョン民間広告を募集する際、事業者の広告づくりを東京工芸大学・神奈川工科大学の学生に依頼することもできることを呼びかけた。コストの面のメリット、プロとは違うとはいえ学生でも優れたコマーシャルを製作する環境にあることなどが強調されている。また、希望があれば商店会連合会が実施したコマーシャルコンテストの作品サンプルCDを送付することもできる等を案内している。2007年度はマッチングには至っていないようであるが、「コマーシャルコンテスト」などを通じて学生側の技術の向上、また地元の企業・商店の学生の技術に対する信頼が高まっていくことによりマッチングが実現し、大学と連携した新たなビジネスモデルとなることへの期待もある。

②行政情報について

ア 行政コンテンツづくり

市では行政情報の映像についても、製作に当たって大学との連携を進めている。

東京工芸大学芸術学部映像学科では、委託を受け市の行政サービスを紹介する映像番組を制作する。1本が30秒で、道路マナー・交通安全、たばこのポイ捨て、放置自転車の防止など12作品が学生により製作され、あつぎビジョンにおいて放映が始まっている。

また、神奈川工科大学情報学部情報メディア学科では、2件の委託事業に取り組む。1つは、学生による市の自然、文化財等を紹介するプロモーションビデオづくりである。10作品が製作され、やはりあつぎビジョン等で放映される。もう1つは、市民公募型ミュージカル「赤い靴～inあつぎ～」(注6)の制作から公演にいたる模様をデジタルハイビジョンカメラで記録するというものである。ミュージカルの広告・広報番組として、あつぎビジョンでも放映される。

このような学生を主体として取組について、市では斬新なアイデアをたっぷりと取り入れたユニークな作品となることを期待しているという。

イ イベントのライブ中継の実施

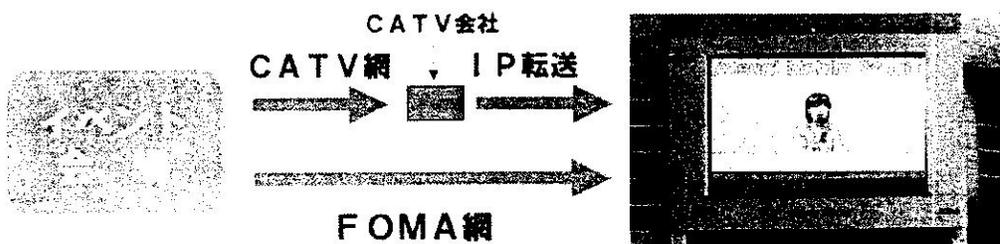
2006年11月17日から19日に市内の文化会館で「オールテクノフェスタ2006」が開催されたが、その集客などをねらって、早速、駅前のおつぎビジョンが活用された。ライブ中継の実施である。市民参加型で取組まれ、プロのレポーターとともに市民や学生のレポーターが、会場の様子、展示ブースの紹介などの映像情報を駅前通行中の市民にリアルタイムで届け、イベントの周知や来場を呼び掛けた。

今後も、成人式や桜まつり、市の大きなイベントである鮎まつりなどの様子をリアルタイムでおつぎビジョンを使って放映する予定となっている。ライブ中継のインパクトにより、映像を見たことを契機とした会場へ向かう人の流れを作り出し、地域の活性化につながる効果が期待される。

(ライブ中継のイメージ (厚木市提供資料))

Atsugi Mobile Studio

市内の各イベント会場からナマの映像を中継



成人式、さくらまつり、鮎まつりなどの中継映像をおつぎビジョンで。学生が中心になって、そのまま会場へ足を運びたいような情報をお届けします。

5 その他の映像を活用した取組

5. 1 市民向け映像教室の開催

また、市では市民を対象とした映像教室を開催している。市民には市内の企業であるSONYの退職OBも少なくなく、映像に対する市民の関心が高いとのことである。東京工芸大学や神奈川工科大学の機材・設備を使って実施され、学生によるサポートも行われる。このような取組を通じて市民の技術力が向上していくことにより、「厚木市IT基本戦略」が掲げる「市民の積極的なIT活用」の取組が進んでいく。

5. 2 デジタルアーカイブス

市では、市内の文化財、街角の風景、自然、民俗、風物など厚木市の「今」をデジタルカメラ等で記録をし、後世に残すという取組を市民参加で行っている。市民から提供された写真は市のホームページなどで公開されていく（「デジタルアーカイブス」）。参加者を対象に、情報プラザにおいて写真教室や撮影会、パソコンによる画像加工教室なども行われている。

6 おわりに

以上、“あつぎビジョン”を活用した情報発信事業ということで神奈川県厚木市の事例を見てきた。複合的な政策効果が期待されるリーディング事業となっていることに注目をした。

その画面から発信される情報は、市民に対する新たな情報伝達手段として広報の強化になる。また、イベントのライブ中継は会場へ向けた新たな人の流れを起こす等により地域の振興にもつながっていく。さらに、駅前に設置され情報発信を行うことでまちのにぎわい創出、広告による地元商店街の活性化などにも寄与することになる。広告収入により1,700万円の収入を確保している点は、近年、自治体の財政が全国的に厳しくなっている中、自主財源の確保の一つのモデル的な取組にもなっている。

厚木市では発信する映像のコンテンツづくりについて、市内の3つの大学の映像系学科との連携の中で取り組んでいる。近年、大学も積極的に地域貢献の取組を進めるようになってきており、この事例は、大学と行政の連携による新たな地域づくりのモデルを示すものでもある。行政情報の大学への委託に学生が主体となって取り組むことで、学生にとって実践的な教育の機会となるとともに、行政にとっては大手の広告代理店にコンテンツ作成を依頼するような場合と比べると比較的成本も抑えることができる点はメリットである。

デジタルアーカイブスへの市民参加や市民向け映像教室の開催は、継続的に進められることにより、市民の間に映像活用の技術を持った層が一定形成されていき、映像を活用したまちづくりの裾野を広げることにつながっていく。

「3 厚木市の情報化の取組」で見てきたように、あつぎビジョンによる情報発信が始まるまでには、これまでのITのまちづくりとしての長年の積み重ねの中で、大学、企業、市民など、

地域の様々な主体を結集できる基盤がつくられてきたというのが大きいと思われる。

今後の課題は、「電子市役所宣言」でいう「ITのまち・あつぎ」に向けて市民の関わりを高めていくことと、そのことを地域の活性化と豊かな地域コミュニティの創造へとつなげていくことであらう。今後の取組の展開を期待したい。

(注)

注1) 「厚木市情報プラザ」

<http://www2.city.atsugi.kanagawa.jp/plaza/index.html> (2007.3.31)

注2) 「学校法人ソニー学園」

1964年にソニー株式会社の寄付により設立された経緯を持つ。

注3) 「厚木市広告掲載要綱」

http://www2.city.atsugi.kanagawa.jp/data/files/0062_014890_koukokuyoukou.pdf (2007.3.31)

注4) 年間運営経費約3,000万円の内訳は次のとおり。

大型ビジョンリース料 約1,920万円(6年契約)、運用業務委託 約440万円、

施設使用料 約250万円、電気料等 約170万円、機器保守料 約270万円

注5) 厚木市商店会連合会HP。商業コンテストの様子及びその作品。

<http://www.anext.net/contestpenew.html> (2007.3.31)

(注6) 市民公募型ミュージカル「赤い靴 ～in あつぎ～」

2007年1月14日に厚木市文化会館大ホールで開催された。

(参考文献)

厚木HP <http://www2.city.atsugi.kanagawa.jp/jouhouit/index.html> (2007.3.31)

厚木市提供資料